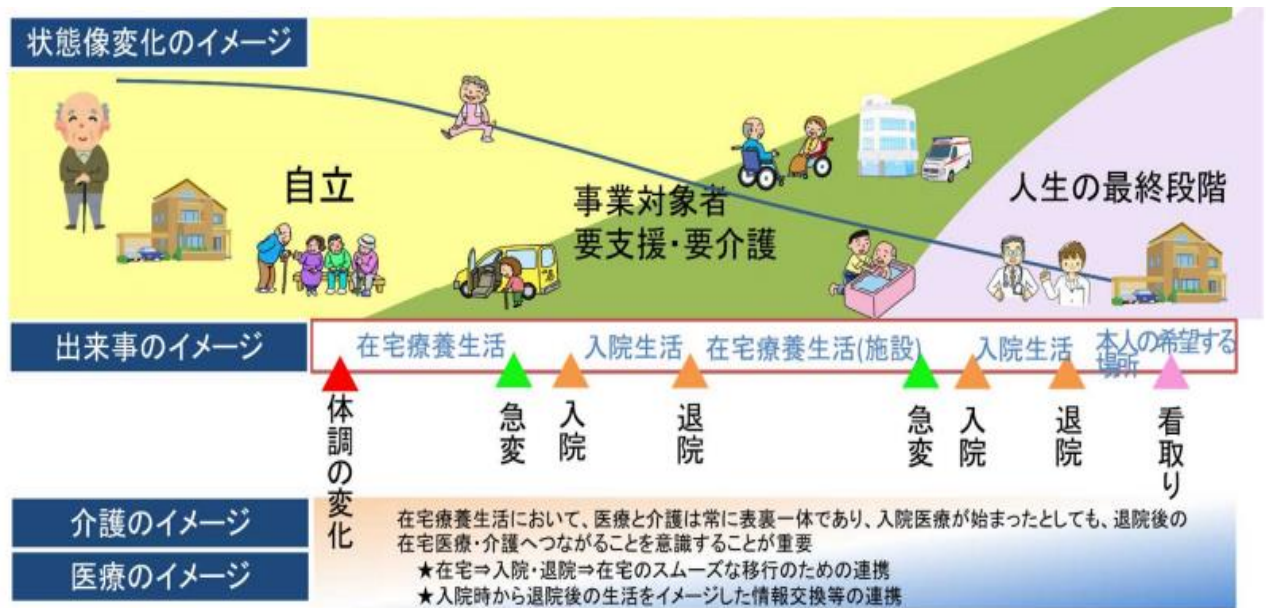


高齢者の状態造の変化と出来事のイメージ



出典：厚生労働省資料

地域のめざすべき姿

「医療と介護を必要とする市民が、自分の望む場所で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる」

4つの場面ごとのめざすべき姿

	めざすべき姿	サービス・支援
日常の療養支援	体調の変化にあわせて、医療と介護の両方の適切な支援を受けながら、本人の望む場所で自分らしく生活することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 多職種協働による本人や家族の生活を支える観点からの医療（在宅医療を含む）・介護の提供 緩和ケアの提供 家族への支援 認知症ケアパスを活用した支援
急変時の対応	医療・介護関係者が、急変時に備えて本人の意思等を関係者と事前に共有しておくことで、本人の急変時に適切な対応を受けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 在宅療養者の病状の急変時における往診や訪問看護の体制及び入院病床の確認 急変時における救急（消防）との情報共有
入退院支援	入退院により生じる心身の変化に合わせて医療・介護関係者が連携し、本人が望む場所で適切なケアを受けながら安心して暮らすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 入院医療機関と在宅医療・介護に係る機関との協働による退院支援 一体的でスムーズな医療・介護サービスの提供
看取り	本人が元気なうちから自身の看取りについて考え、関係者に共有することができ、望む形で看取りの支援を受けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 住み慣れた自宅や介護施設等、本人が望む場所での看取りの実施 人生の最終段階における意思決定支援